

## 巻頭言

板垣 信哉

宮城教育大学は、昭和40年（1965年）に設立されて以来、初等教育教員養成には「宮教大独自の理念」をもって、多くの「新たな試み」を実践して参りました。小学校英語教育研究センターも、本学の伝統を受け継いだものであります。本センターは、平成23年度（2011年度）からの小学校での外国語（英語）活動の必修化を見据えて、平成22年2月（2010年2月）に設立されました。その後、未曾有の震災に見舞われ、センターの役割を果たすことができない状態が続いたこともあり、センターの存続が危ぶまれたこともありました。皆様のご尽力のおかげで、平成23年（2012年）からセンターとしての活動を徐々に軌道に乗せることができました。

本センターは、小学校での外国語（英語）活動の必修化にともない、多くの課題をかかえている教育現場の多様な支援の要請・要望に応えることを目的とすると同時に、その支援のための実践面と理論面での研究活動を遂行することを目指しております。幸い、地元宮城県、仙台市をはじめとする各自治体の教育委員会のご理解もあり、現職教員も客員研究員あるいは協力研究員としてご参加していただいております。

この度、皆様の理論面と実践面での研究成果として、本センターとして、最初の年報を刊行することができました。内容は、小学校英語活動に関するものは勿論、広く中高大の英語教育を見据えてのものであります。英語教育全般に関わる議論の手がかりを提供できれば幸いです。

最後に、お忙しい中、国内外の研究及び実践されている方々から貴重な原稿を投稿していただいたことをここに記して、あらためて御礼を述べさせていただきます。